

経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

令和2年6月30日(火)午後3時09分～午後5時17分(9階 909 会議室)

○出席委員(8名)

委 員 長	二階堂武文
副委員長	佐々木 優
委 員	高木 直人
委 員	川又 康彦
委 員	石山 波恵
委 員	阿部 亨
委 員	小松 良行
委 員	山岸 清

○欠席委員(なし)

○市長等部局出席者(なし)

○議 題

- 「古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査」
- (1) 現地調査について
 - (2) 現地調査意見開陳
 - (3) その他

午後3時09分 開 議

(二階堂武文委員長) ただいまから経済民生常任委員会を開会いたします。

古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査を議題といたします。

まず初めに、現地調査についてを議題といたします。

お手元に配付の行程に基づき、古関裕而記念館の現地調査を行います。

それでは、委員会を暫時休憩し、古関裕而記念館へ向かいます。

午後3時10分 休 憩

午後4時58分 再 開

(二階堂武文委員長) それでは、委員会を再開します。

本日の現地調査について意見の開陳を行います。

本日視察した内容及び聴取した説明に関してご意見のある方はお述べください。

(小松良行委員) エール放映前に一旦は視察しましたが、今回エール放映ということで、エールに合わせた展示コーナーもリニューアルされ、来館する方々も感心して御覧になっていただけているのだろうなというふうに思っています。特に1日500人がマックスだという中で1時間も待たせるというふうな状況下の中、隣の音楽堂を活用して、この点は福島市のポテンシャルがすごかったなとか、よく音楽堂の隣に造ったものだというふうに今さらながら感心するところです。パイプオルガンやピアノ、フルートなど様々なミニコンサートですけれども、飽きさせることなく、むしろお得感もプラスされたかなというふうに思えば、いろいろと工夫を凝らし、館長さんはじめ一生懸命やっている姿に強く深く感銘をしました。今問題となっているのが駐車場で来館者がおいでになるときの交通の問題なのですけれども、本議会で決まったとおり、8月からさらに大勢のご予約の希望があるようですから、それに合わせて駐車場の整備が早く進むといいなというふうに思ったところでありました。

以上です。

(石山波恵委員) 土日が1時間待ちというお客様を退屈させないための音楽堂の活用法だったのですが、ぜひとも福島の方をはじめ、他県から来た方も音楽堂にぜひ来館していただきたいと思います。また活用法なのですけれども、週末だけではなく、ウィークデーの日もいろんな方々が発表の場になれるような大きな形で福島のおもてなしをより一層強化して、福島に来た方が本当によかったとなればいいなと思います。

また、今エールが第1話に戻って福島を放映しているということも、それをチャンスと捉えて、今後、もっともっと来館者数が増えると思うので、この体制をしっかりと整えながら進んでいくという方向で、私自身もいろいろアイデアを出しながら応援していきたいと思います。

以上です。

(高木直人委員) 私も今両委員がおっしゃったように、1時間待ちであったとしても待たされ感を持たれないような、音楽堂を活用したそういった取組がされているというのを見て、本当に安心して今日は帰ってきました。待たされて、帰ろうとか、嫌な思いするよりは、本当に気持ちよく記念館を鑑賞してもらえるのではないかなというふうに思いました。

あとは、やはりこれからドラマの放映終わってからリニューアルという話もありましたけれども、このドラマのブームだけ、一過性で終わることなく、音楽堂も見ていただいて、福島市はいろんな魅力ある施設がたくさんあるのだなというのを認識していただきたい。これからも長く福島市に足を運んでももらえるような、そういった魅力ある福島市を全国にPRできるような、そういった取組をこれからまた我々も考えていきたいなというふうに思っております。

以上です。

(山岸 清委員) お三方が言ったとおりです。音楽堂の活用は非常によかったと思う。やっぱり1時間待ちでぼやっとしているのでは駄目だから。市内の学校から発表したいなんていうのがいたら。で

も、その歌聞いていたら古関裕而記念館のほうに行かなくなっても困る。活用方法は十分考えていただければと思います。

（川又康彦委員）私は2つありまして、1つは今までほかの委員の方からもありましたけれども、音楽堂の活用についてということで、私としては非常にいい方法かなと思ったのですが、一方で館長の説明でいうと、人数的にはマックスで、現状だとこれ以上受け入れるのは難しいのではないかと、どうしても待ちの時間に帰られる方も多いという話もあった中で、ではどうしたらいいのかということで、音楽堂で音楽を聞かせるというよりも、観光客が来て、別に古関裕而記念館の建物に行きたいわけではないので、音楽堂の1階のある程度の空きスペースのところに何らかの展示物、あっちも古関記念館の一部というようにしてしまっただけで、そもそも待ち時間という概念をなくすような、そういうものをテレビ放映中もしくは今年度ぐらいはそういう体制にしていかなないと人数的には絶対さばけないし、本来だと5,000人ではなくて1万人は来てもおかしくない規模なので、そうするともう今の現状では無理だということが実際ははっきりしたのではないかなと思いますので、音楽堂をどういうふうに一体として活用するかというのをもう少し考える必要があるのかなというのを改めて1つ思いました。

もう一つは、地元の商工団体とのタイアップというところで、これを頂いてきましたけれども、これは観光コンベンション協会で作ったみたいなので、市が絡まないとできないのかなというのが正直言って非常に残念な部分で、もう少し地元の商工業者が積極的にあそこを利用するようなふうにとっていく何らかの手だてをしていかなないと、あそこに来て、青春館も一応あるけれども、そこで終わってしまうので、その働きかけをもう少し、トップの人がしゃべったって進まないで、現場の実際の人とどういうふうにできるのかということと、部局を超えないとできない話なのかもしれないので、その辺は商工観光部も交えてきちんと話していかなないと、せっかくのポテンシャルある施設をどういうふうに活用していくのかというのが重要になってくるのかなと改めて感じました。

以上です。

（阿部 亨委員）館長からの課題点を様々お伺いしたのですけれども、来場者の方の生の声も聞いてほしいかなとは思いました。様々建物が古いとか、駐車場が狭いとか、飲食は考えていないということだけでも、来た方はやっぱり食事もある辺ではしたいのかなとも思うのです。あそこの中で食べるのが本当はいいのだろうけれども、そうはいかないから、周辺とか。そういう部分で実際に来られた方の声もよく聞いてみるというのも一つなのかなとは思いました。

それと、エールが終わった後のアフターエール。確かに今現在は放映されているので、間違いなく人は来るとは思うのです。その後だと思うのです。その取組として様々商工会の方とか、事業所との関連とか、音楽堂の活用とか、そういうことも広く考えて、どうやったらいいのかなということはいろいろ検討していって、それに組み込んでいくということなのだと思います。

以上です。

（佐々木優委員）私も音楽堂のパイプオルガンを聞くって、本当になかなかそういうチャンスってあ

まりないと思うのです。35年たったとさっきおっしゃっていましたが、すごくいいものを持っていて、それをなかなかたくさんの方というふうにならなかったというのも、今ここに来て古関裕而さんのことと、それからコロナの影響もありましたけれども、それが功を奏してその音楽堂とかパイプオルガンとかつながっていったということはとても、偶然にしても、古関裕而さんの音楽を通して音楽堂のこともちゃんと広げられるのだなというのが分かったので、ぜひ音楽堂で、石山委員がウィークデーもいろんな人という、それも本当にすごく大事だなと思っていて、そういう演奏する人たちを育てるというのもやっぱり古関さんにつながっていくのではないかなというふうにも思ったので、音楽をする皆さんの活躍の場というふうなことも含めて、古関裕而さんにつながって音楽、それからまちの中にもお客さんをつないでいくというすごくチャンスが広がったのではないかなというふうに感じました。なので、皆さんが言っていた町なかに行ってもらうような工夫とか、それから音楽に関わる皆さんの活躍の場とか、古関裕而さんを通してできることがすごく具体的に分かったなというふうに思います。

以上です。

（山岸 清委員）気がついたのだけれども、音楽堂の南のほうに何か施設あったのではないっけか。

【「働く婦人の家」と呼ぶ者あり】

（山岸 清委員）働く婦人の家。だから、どこかに働く婦人の家をちょっと移動して、あそこで展示物いっぱい入れられると思うのだな。働く婦人の家も利用形態として考えればいいのではないの。

（二階堂武文委員長）現地視察に行ってきた、今皆さんがおっしゃったことを本当に私も感じました。先ほどの阿部委員の話ともつながってくることもあるのかもしれないですが、日赤が東側に移転したということで、実は音楽堂の前にあった薬局が入っていた場所が空き店舗になっています。先ほど飲食できるスペースとかというお話ありましたが、そういった意味では古関裕而記念館の周辺にできた空き店舗が今ありますけれども、あの辺なんかも市のほうでも古関裕而記念館にいらっしゃった方との連動性なんか考えて、飲食店とか何かあそこに入って、おもてなしというか、何か協力できるような策をちょっと講じてみることも必要なのではないかなというのを一つ感じました。

それと、音楽堂の活用ということで、川又委員が連動して音楽堂のスペースなんかも展示スペースとしてというようなお話をされていましたが、山岸委員のほうからも、ちょっと離れますけれども、働く婦人の家の話が出ましたが、あの施設一帯をうまくやはり連動して活用していくようなことというのが私自身の発想からも抜けていたような気がしまして、それは今後すごく大事なポイントになるのだなというのを感じました。

あと、今福島市のほうでも広域連携ということで、スタンプラリーで川俣町との連携がちょっと出ました。本宮市のほうも伊藤久男さん、蛇の鼻遊楽園ですか、いろいろ力入れていらっしゃったりしておりますので、この辺なんかも結構遠方からいらっしゃる方にとってみれば、福島、川俣、本宮という距離感は意外と気にならなくて、移動していただける方も中にはいるかもしれませんので、その

辺なんかも今いろいろ考えているのかもしれませんが、ぜひ考えていただければと改めて思いました。

あと最後に1点、帰り際に村上館長さんと話をしたのですが、古関裕而さんを日本コロムビアに紹介してくれました山田耕筰さんのお母さんの実家が大笹生にあったということで、20年前ぐらいに福島市の市史編纂室の守谷早苗先生がちょっとご説明されたのですが、民友新聞でも20回ぐらい連載されたというお話を伺いました。ただ、その実家が北海道か何かに移住されたらしくて、今いろいろ情報を探っているということで、民友新聞社の記者の方も新しい情報がつながれば、ぜひ山田耕筰のお母さんの実家という視点から古関裕而さんとの結びつきを新聞等で報道していきたいみたいなお話を先日されていました。古関裕而さんから来た手紙に福島の文字を見つけて、すごく郷愁、同郷の青年ということで、コロムビアに推薦するきっかけに山田耕筰さんの気持ちを動かされたのではないかとというようなことを、先ほど館長もそういうふうに受け止めていますという話をされていました。それは今後の取材に期待したいと思います。

私のほうは以上になりますが、ほか何かございますか。よろしいでしょうか。

(石山波恵委員) 1時間待たせて、帰るというお客様を一人でも逃しては駄目だと思うのです。今しかないと思うので、いかに来た方がみんな分散できるような状況を、音楽堂もしくは、先ほど山岸委員言いましたけれども、働く婦人の家とか、あの辺全体でおもてなしの一環として、あと委員長も言いましたけれども、ちょっと飲物とか、一服するところとか、あの辺全体でという捉え方で考えていくというのも大事ではないかと思いました。

(山岸 清委員) あそこに全国から来た人が書いていくのだよね。大分前から書いていたの。そうしたら、随分遠いところから、北海道から、九州から来ているの。中には古関裕而記念館を目指して来たのではなくて、競馬に来て寄ったとか、あと飯坂温泉に来たから、たまたま寄ってみたなんて、最初から広がっていないのね。でも来た人はみんな感動して帰っていったよ。曲を小さい頃から聞いていたとか、あとは、自分の会社の歌を古関さんに作ってもらったなんて喜んでいる。あと高校球児でずっと甲子園の歌から何からで、今は阪神ファンですなんて言って、やっぱり結構大したもののであるわ。だから、俺らが思っている以上に全国的なところから来る人らには価値あるのだね。

(二階堂武文委員長) よろしいでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) そうしますと、次回は、現地調査のまとめと委員長報告の提言項目の協議という項目で7月10日金曜日10時からとなりますので、よろしくお願いします。

以上で経済民生常任委員会を終了いたします。

午後5時17分 散 会

経済民生常任委員長 二階堂 武文